

鉄道マニアが最近世間に時々登場してくる。

自分の好きなマニアだから世間に登場してくるかどうかはどうでもいいのだが、登場してきたものには敏感に反応を示す。鉄道マニアと言っても色んなジャンルがあり、カメラを持って追っかける「撮り鉄」、乗車して楽しむ「乗り鉄」、無くなった線路を追う「廃鉄？」など豊富だ。

地図の世界でもマニアがいて、いろんなジャンルがある。

グーグル地図のマニアがいるかも知れないが、時代の先端を行っているのでマニアというよりパイオニアの名がいいかも知れない。以前、地図は紙しかなかったので、どの世界でも言えるのだが古い紙地図に人気がある。

その紙の地図でも、絵図という手書きで書いた地図を印刷したものは味がある。江戸時代はもちろん、明治になっても作られていて時代の雰囲気かわかり、絵師は誰々と名前があり絵画の分野かもしれない。今でも観光に使われているイラストマップなどというもので、漫画的な建物や人物まで入っている物もある。

絵図の世界とは別に「絵図でない」世界がある。

地形図と言われる客観的な地図である。絵図のような人物はなく、組織チームが測量し地図にする世界である。「陸地測量部」という言葉に反応すれば地形図マニアだ。この世界では大御所「陸地測量部」が何かと登場する。

明治維新後、地図が必要だと痛感した政府は地図づくりを始める。鉄道や道路建設のためにと工務関係、税金集めにと内務関係と色んな分野でやり始めるが、軍事関係がせり勝って、陸軍が一括して全国の測量をやることになった。

明治21年に陸軍陸地測量部が発足し、太平洋戦争終了まで一元的に測量する。あらゆる縮尺の地図をつくったが代表作に「迅速図」「仮製図」「正式2万分」などがある。これがどうして人気があるかと言えばやはり古いからであるが。古くて使える地図だからである。

抽象的な絵図と違い客観的な地形図は、その時代の土地にあるものをそのまま書いてある。そうすると、あとの時代の人がある目的で探すものがその地図の中にあるということです。そうです、ある目的の「街道」が出てきました。その地図の中にその時代の道がしっかり書いてあるのです。

街道の道筋を探すのに江戸時代では絵図しかありませんので場所がはっきりしませんが、近代的な地形図では道筋が判るのです。

今のグーグル地図と同じで、その時代の先端を行き、今も使えるパイオニア地図づくりをされた陸地測量部に大感謝です。